

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人天心会		
事業所名	グループホームすこやか1		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1		
自己評価作成日	令和3年1月5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年2月12日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様のご自宅で過ごされていらっしゃる時と同じように、馴染みの方々と好きな事をされ安心して生活が送れるように支援している。・センター方式ケアプランを取り入れ、利用者様お一人お一人を深く理解することで、思いや希望をくみとったケアプランに繋げている。</li> <li>・地域の中に出向いたり、ホームに来て頂いたりしながら地域の方々と交流を深めている。</li> <li>・医療・福祉ゾーンの一角に位置し、必要な時に専門医の医療を受ける事が出来る。協力医院との連携により24H対応出来るようになっている。</li> <li>・毎月部署会議、勉強会を実施、又同法人、グループ単位での研修会が年間計画され、知識を深め職員の質の向上に努めている。</li> <li>・法人、グループ単位での感染防止、身体拘束廃止、虐待防止、サービス向上、リスク委員会等に所属し、検討、対策、向上に努めている。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1.運営推進会議は、一時コロナ禍で中止していたが現在別棟の法人本部で定期的開催している。利用者から土手の雑草駆除の要望があり、委員が河川事務所に働きかけ整備され地域からも喜ばれている。また、法人内介護事業所と合同で市防災係を講師に市内の防災について講演をいただき、委員から地元ならではの意見が出る等、サービス向上に向けた取り組みをしている。</li> <li>2.コロナ禍で面会も玄関先・ガラス越し・リモートになり外出も思うようにできなくなっているが、事業所の畑で利用者の知恵を得て野菜作りを行い、メニューに取り入れている。また、初詣・歳の神(どんと焼き)・小正月の団子さし等、地元根ざした行事を楽しんでいる。</li> </ol>
---

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが(コロナ感) 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの部署会議の中で読み合わせ、意味等話し合いをもうけ、実践に繋げている。その中でも今年度は地域の方々との関わりを持ってのサービスに繋げる事が出来るようにしている。	理念は、事業所開設以来のものであるが、毎年、年度当初会議で、実践に向けた具体的な方法について話し合い、見直しをしている。また、理念を事務所や職員トイレ内側ドアに掲示し、常に確認ができるようにしてある。意義を共有して毎日の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いつも訪問して下さっていた近隣の方が、コロナウィルス終息に向けて、わらのお守りを作ってきて下さった。いきいきサロンに参加できず運営推進会議の中でサロンの会長様より、いつでも待ってるので来て下さいとの声をかけて頂いた。	地域の方の日常的な訪問があり、保育園の運動会応援や遊戯会・ハロウィンなどの交流、ボランティア・中学生職業体験・看護学生実習を受け入れていたが、コロナにより自粛中である。現在、地域の方がコロナ封じのわら細工を届けてくれたり、保育園児が遊んでいる様子を外出時の車窓から見るなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為認知症カフェが開催出来ず、その中で地域の方々に出来る事として認知症についてや、その他悩んでいる事、不安な事などある時には電話での相談がいつでも可能な事を、チラシでお知らせしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	法人の委員会の中で地域貢献を考える機会があり、今年度総合防災訓練に向けて活動する事となり、地域密着型施設であるグループホームと小規模多機能施設で、合同の運営推進会議を開催し、喜多方市の防災担当者からの講演を聞き、地域の方々と共に、防災意識を高める事が出来た。	コロナ禍で別棟の法人事務所で定期的に行っている。利用者から遊歩道の土手の雑草駆除の要望があり、委員が河川事務所と掛け合い整備し地域からも喜ばれている。また、他介護事業所合同で、市防災係を講師に防災について講演をいただき、率直な意見交換をするなど委員会を活かした取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で意見を頂いたり、事故報告書提出時、アドバイスを受けている。認知症カフェについて他の地域での活動を映像をうつしながら意見交換を行った。	運営推進会議へ毎回の出席協力を得る他、市推奨の認知症カフェ開設事業所との連携会議で市担当者からの情報収集や助言を得ている。また、管理者は、介護保険や利用者の状況報告や相談へ出向き、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人やグループの身体拘束廃止、虐待防止委員会に出席し、センサー使用についての話し合いをもうけた。使用にあたっては理由を明確にし、期限を設定し使い続けられない等の留意点を再確認した。ケアプランに取り入れ、家族に了承を得たうえでやっている。	法人の指針に基づいて定期的に会議を開催し、その後事業所内会議で話し合いをしている。また、法人共通のセルフチェックを年2回実施し、事業所ごとに集計を出し振り返りを行っている。法人及び事業所内で研修を行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議の中でアンガーマネジメントの研修会を開催し意見交換を行い、グループの虐待防止委員会にあげ、共通理解を持つ事が出来た。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の成年後見人制度についてのウェブ研修に参加する。資料を職員に回覧、伝達した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約については管理者が丁寧にご家族に説明し、疑問点や不安な事を伺い納得して頂けるようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族面会時、ケアプラン説明時、又普段の会話の中から、ご利用者様やご家族様から意見、意向を伺いながら、気持ちを汲み取るよう心掛けている。意見箱を玄関に設置したり、苦情、要望ノートを作成し、職員間で話し合いを行い、法人の第三者委員に苦情解決を報告している。	「苦情・要望ノート」を作成し、介護支援計画見直しの話し合いや電話などで出された些細な意見でもその都度書き留め、会議で改善に向けた話し合いをしている。また、第三者委員より年1回の巡回訪問時に助言を得るなど、利用者・家族からの意見を運営に反映させる取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に意見が言えるように、部署会議での意見交換、人事考課の管理者との面談を行うなどして環境を整え、意見、提案を反映している。	管理者は、日々の業務上での話し合いや会議などでの意見を出してもらおう工夫をしている。また、年2回職員面接を行い、仕事への目標や意見等を聞く機会を設けている。異動時には、個人の意向を聞く配慮をし、意見が運営に反映させられるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員一人一人が目標と向上心を持ち、やりがいに繋げている。年1回全職員に対しストレスチェックが行われプライバシーを尊重しながら、希望者に対し産業医と話が出来る体制が取られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の外部研修に関しては、ウェブ研修に参加したり、他法人内での内部研修にそれぞれのテーマで職員が参加できるようにしている。研修報告を部署会議内で伝達し、レベルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会で同業者との意見交換を行う事が出来た。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、入居前にお話を伺って不安なく安心して生活出来る様要望を伺って信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学時など、困っている事や情報を聞きご本人様やご家族様にとってよりよい生活、関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって何が必要かを一緒に考え、他にどんなサービスがあるか、どういった対応が望ましいか見極め努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、調理やお掃除を一緒に行い、支え合っ楽しんでながら生活し協力しながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族にお便りを出して、写真や近況報告をし、又、電話などでお話する時間を作ったり面会などでご本人様と過ごす時間を持って頂き共に支えていく関係を築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のかかりつけの美容室や馴染みの場所や人間関係を伺いながら関係性が途絶えないよう交流を持っていけるよう支援している	コロナ禍により、馴染みの理美容店からも足が遠のき、家族面会は玄関先かガラス越しとなるが、誕生日にプレゼントを届けてくれる家族もある。また、初詣の神社へのドライブ、消防署の許可を得て歳の神を事業所の庭で行い、団子さし等、地域の慣習を継続した支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しトラブルの無いよう努めている。利用者様同士声かけ支え合っているような関係が出来ている。一人一人の性格に合った対応をし孤立しないよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は面会に行き、ご本人様の状態を伺い退所後もご家族の相談や支援に務めている。退居が決まった場合でも相談にのったり安心して頂けるよう他病院や施設への連絡も行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、利用者様の希望に添った生活を送れるよう、家族様からの情報も伺いながら定期的にカンファレンスを行い、検討している。	入居時に、本人・家族から情報を得ている。担当制を取っており、日々の会話から一人ひとりの思いを汲み取り、希望や意向にの把握に努めている。また、困難な場合は、日々の観察やカンファレンスでの話し合い、家族の助言を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様、ケアマネから情報を収集し職員間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りノートで情報を記録し申し送る事で本人様の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様からの要望を伺いながらケアプランを作成している。定期的、大きく状態が変化したときにはカンファレンスを行い現状に即したケアプランを作成している。	入居時に、本人・家族の意向に沿った支援計画1カ月分を作成し、その後3カ月を目途に見直しをしている。センター方式の24時間アセスメントまとめシートを活用し、担当者が資料をまとめ、カンファレンスで、見直しをしている。職員全体がチームとなり、介護計画の策定、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯での個別の記録や申し送りノートでの気づき、要望などの情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様からの要望を聞き入れ、その都度職員間で話し合い対応している。同法人、他事業所との協力体制が出来ており柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報や運営推進会議で年度活動情報を共有し交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関がかかりつけ医になっている事を説明している。本人様や家族の希望があれば入居以前に通院していた医療機関へ継続して頂いている。	入居時に家族へ受診について説明しているが、殆どの利用者が協力医療機関を選択している。協力医への定期受診には職員が同行し、かかりつけ医への通院は、家族の協力を得ている。受診時、医療機関連絡票で主治医と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名を配置し日頃の状態を報告し連携を図りながら受診に繋げている。緊急の場合は法人内や協力医療機関の看護師に相談し、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、入院時連絡票やサマリーを活用し、医療機関との情報を共有している。入院中は看護師より病状や状態を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針が作成されている。週末期についてはご家族様、医療機関との話し合いをもち対応を行なっている。	契約時に事業所が「重度化、看取りに関する指針」に沿って説明し、同意を得ている。また、病状の経過と共に看取り期には、主治医・職員が家族の希望を聞き取り、事業所に対応できることを話し合いながら家族の意思を尊重し意向に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルが作成されている。マニュアルに沿って対応を行なっている。隣接されている有隣病院と24Hの協力体制の契約を結んでおり、すぐに搬送出来るようになっている。搬送については同法人の老健施設職員の協力が得られることになっており、マニュアルに組み込まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を他部署や他施設の協力を得ながら年間計画に沿って毎月行われている。災害に対するマニュアルも作成されている。今年度は天心会として小規模多機能施設、グループホームが中心となり地域の方々と防災意識を高め、非常災害時の一時避難場所として天心会の建物を使用する事が出来る事を地域の方々にお伝えし、来年度には防災訓練の実施を予定している。	年1回、消防署立会の総合避難訓練を実施している。また、防災対策マニュアルにより年間消防訓練計画を策定し、毎月避難訓練を実施している。非常時用として米・水・缶詰・防寒シート・卓上ガスコンロ等を備えている。なお、法人は関係施設の建物を地域住民の災害時の一時避難場所として、関係機関と調整中である。	年間を通して、避難訓練を実施しているが、火災想定が中心となっているので、風水害・地震想定訓練も計画することが望まれる。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の念をもって接している。丁寧な言葉遣いと誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛け、入浴や排泄時には羞恥心を感じさせないように配慮している。	利用者一人ひとりを人生の大先輩として、生活歴や経験を理解・尊重し、個々に合わせた言葉遣いや態度に心がけている。また、事業所のサービス向上委員会が接遇に重点をおき、リーフレットやポスターなどで周知徹底をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの時間を多く取り、出来るだけ利用者様の思いや希望に添えるようにしている。言葉にできない、要望を伝えにくい方へは出来るだけ思いを読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の得意な事を把握し、個人のペースや生活習慣を大事にしながらその日の生活を提案し楽しんで頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容できちんとした身だしなみが出来るようにしている。出来る方には好みの服を選んで着て頂き、必要に応じお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の材料を切って頂いたり、盛り付けや食後の片付けを手伝って頂く事で食事の楽しさを感じて頂いている。畑の野菜を収穫したり、季節の行事メニューも楽しんで頂いている。	献立は、法人の管理栄養士が作成しているが利用者の好みに合わせアレンジし、メニューをホワイトボードに書き食事前に説明することで、食への意欲や楽しさを引き出している。また、利用者ができる範囲で、調理・野菜の下処理・食器洗い・食器拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を基に献立を提供している。食事量や水分量を職員間で把握しその方に適した物を提供し、食事形態にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや夕食後の義歯洗浄を行って口腔ケアを行っている。また、状態によっては口腔ティッシュ等で口腔内の菌茎のマッサージや痰除去を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見直し、排泄間隔を理解し声かけトイレにお誘いし尿意・便意の間隔が戻るように支援している。また、オムツ量が減った方もおられる。	排泄チェック表や日常生活の中で排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮し、トイレへの誘導支援を行っている。また、利用者の表情や仕草からも排泄を察知し、声掛け誘導でトイレでの排泄が継続出来るよう支援している。オムツの使用量が減った方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食物繊維が多い手作り寒天を提供したり、水分摂取の少ない方には、好みの飲み物を定供したり、トロミを使用したりゼリー状の物を飲みやすくしている。朝のラジオ体操も取り入れ規則正しく体を動かし体調を整えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好む方やそうでない方と気分もあり、時間や言葉かけを工夫しながらお誘いしている。入浴剤を選んでもらったり、冬には柚子湯を行っている。	入浴は、週2回を目標にしているが、利用者の体調や気分によって入浴に繋がらないケースもあり、時間や声かけに工夫をしながら支援をしている。入浴剤の活用やゆず湯・菖蒲湯を取り入れて季節を感じていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の習慣で、休息したり、就寝されている。その方のペースに合わせ、安心してゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数の職員が関り、誤薬や飲み間違いのないようにチェックし、服薬して頂いている。薬の内容について利用者様に尋ねられた時はお伝え出来るようにし、服薬中の変化についても観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな事や出来る事を行って頂く事で明るく、充実した生活を送って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた場所やなじみの場所に行き気分転換を図っている。本人の希望を伺い、希望に添えるように対応している。	観覧会や紅葉狩りへの外出、家族の協力で墓参りや外泊機会を得ていたが、現在、面会は玄関で窓越しに行われ、利用者の近況は「すこやか便利」で家族へ報告している。外出はドライブに切り替え、地域の名勝地を車窓から眺めるなど、外出の機会を確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に大切に保管している事をお伝えし買い物など必要な物がある時や外出時にはいつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や不安時にいつでも電話でお話できるように支援し、子機を使用しプライバシーに考慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に勤め、花や飾りで家庭的な雰囲気を作りを工夫している。温度、湿度に気を配り、ソファを置いて気軽に寛げるようにしている。	リビングや廊下へ、花や利用者作品・行事写真等が飾られている。また、リビングの畳に雛人形の段飾りを飾り、季節を感じ家庭的な雰囲気が出るよう支援している。また、室内の温湿度や換気を職員が管理し、落ち着いた居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家事のお手伝いや掃除のお手伝いをして頂き、気の合った利用者様同士で会話を楽しくめるよう支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者個人が大切にしている物や、お一人おひとりの居室空間に配慮をしながら支援をしている。	居室は、利用者・家族と相談し、自宅で使い慣れた馴染みの家具やテレビを持ち込み、位牌や遺影を持参している方もいる。また、家族の写真やぬいぐるみ等を飾り、その人らしく落ち着いた生活が送れる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安心して自立できるように、お一人おひとりの状態に合わせた、安全な居室作りに支援をしている。		